

令和7年度 大阪市イノベーション促進評議会 会議要旨

1 日時

令和8年3月26日（木曜日） 10時10分～11時37分

2 場所

大阪イノベーションハブ（OIH）、及びWeb

3 出席者

北岡委員長、岡委員、高橋委員、藤本委員

事務局（一入部長、田口課長、栗村課長代理、服部課長代理ほか）

4 議題

- （1）大阪市グローバルイノベーション創出支援事業にかかる最近の主な取組みについて
- （2）今後の取組について

5 会議要旨

議題（1）に関する事務局の説明に対し、各委員より以下のとおり意見があった。

[主な発言内容]

○ 関西のスタートアップの課題等について

- ・ この10年で大阪の支援施策が「体系的・ステージ別」に厚く整備され、以前より大きく前進した。
- ・ 関西は東京に比べてVCが少なく、資金調達が東京に集中しやすい。その結果、有望なスタートアップが東京へ流出しやすい。こうした中で、資金調達とネットワークづくりに関しては、OSAPなどのプログラムの成果は大きい。
- ・ 関西では人材流動性の低さがスタートアップも課題となっており、人材面での取組が重要ではないか。
- ・ 海外VCからは出資条件として本社の海外移転を求められやすく、スタートアップからの相談されることも多い。
- ・ 今後、EXITはIPO中心からM&Aへとシフトしつつある。大阪市もこの潮流に沿った支援や情報を発信することで、大企業側・スタートアップ側の双方の動きを促進できる。

○ アフター万博について

- ・ 大阪・関西万博を終え、「アフター万博」の在り方にも注目が集まっている。
- ・ 万博はスタートアップのPR機会となり、問い合わせ・コンタクトが増えたという声もあり、一定の成果があった。

- ・ グラングリーン大阪の開業により、注目度や人流に変化が生まれた。万博やグラングリーン大阪は、PR および接点創出の面で効果が確認できたため、今後はその効果を継続・拡大する「アフター万博」の設計が重要となる。

議題（２）に関する事務局の説明に対し、各委員より以下のとおり意見があった。

[主な発言内容]

- 大阪イノベーションハブ（OIH）のリニューアルなどの本市施策について
 - ・ OIHは「ここに来れば最短で適切な支援先につながるハブ」として機能を再定義し、ワンストップ案内として位置づけ、来訪者が最短距離で適切な支援先に接続できる導線を整える必要がある。
 - ・ すべてを行政で支援するのではなく、民間事業者・金融機関・大企業へ適切に橋渡し機能を持つことが強みとなる。
 - ・ スタートアップ同士が出会い、相談し合える場としてのハブ機能が重要である。
 - ・ コミュニケーションマネージャーの配置・育成が、ハブの価値を左右する鍵となる。
- 今後の課題について
 - ・ 万博を通じて世界へ発信し、成長したスタートアップをロールモデルとして整理・発信していくことが重要である。大阪市・大阪府の支援や万博での後押しによって成長した点も併せて示すことで、関西のブランディングにつながる。
 - ・ 重点 17 分野の中で「大阪・関西が担う領域」を検討し、大阪の特徴を生かした指針が必要ではないか。
 - ・ 課題解決に向けて官民が一体となって取り組む姿勢を、市長・知事が継続的に発信することで、関西へのスタートアップ集積を促進できる。